地域社会との緊密な連携を築こう

～　地域の特徴を生かした持続可能なＰＴＡ活動を模索して　～

設楽町立田口小学校ＰＴＡ

１　学区及び学校の概要

設楽町は、愛知県北東部に位置しており、３つの水系「豊川・矢作川・天竜川」の水源地である。豊田市、新城市、東栄町、豊根村と接しており、人口は約４０００人の小さな町である。自然や川の恵みにより、農産物や川魚だけでなく、川遊びや山遊びを楽しめるアウトドアスポットも多く用意されている。また文化面では、縄文時代の遺跡が町内各所で発掘され、戦国時代における武士の舞台としても知られている。田峯城跡や田口線廃線跡など歴史的建造物も見られる。

田口小学校は、今年度、開校１５２年目を迎えた。令和６年４月に田峯小学校と統合し、新しい田口小学校となった。今年度の全校児童は４５名で、３・４年生には複式学級が開設されている。ＰＴＡ会員数も年々減少し、これまで数回にわたり組織の再編が行われた。現在は役員４名、部会委員５名、教職員１４名により２つの部会が運営されている。

２　研究のねらい

家庭、学校、地域の３者が連携を図っていくことによって、持続可能なＰＴＡ活動となり、子どもの成長を支える大きな力となるであろうと考え、本テーマを設定した。

３　研究の仮説

地域の資源を活用してＰＴＡ活動を企画・運営していけば、ＰＴＡ活動が活性化され、子どもたちの健全な育成に貢献できるであろう。

４　研究の方法

学校と保護者、地域との連携を図って行う活動において、持続可能な活動という視点で分析し成果と課題を明らかにする。＊下図参照

部会名	地域との連携を図って行う活動
あんしん部会	あんしん安全見守りボランティア（随時）、田峯地区見学会（４月） ゴミ０運動（７月、１１月）、
文化部会	お話読み聞かせ会（各学期）

５　研究の実践と考察

（１）新しい学区を訪ねて　～田峯地区見学会～

田口小学校と田峯小学校の学校統合を期に、お互いの学区を理解したいという意見が出された。特に旧田峯小学校校舎は木造平屋建てで、町の有形文化財にも指定されていることから、訪問の機運が高まり、実施することとした。

初めて校舎内に足を踏み入れた会員は、写真や書物等か

ら１５０年の足跡を目の当たりにしたり、趣のある校舎の雰囲気を堪能したりした。また、地域にある観光施設を訪ね見学したことを通して、新しい学区に関心を持つことができた。

（２）地域に働きかける美化活動　～ゴミ０運動～

年に２回、地域に出かけ清掃活動を行っている。昨年度からは天候による実施の有無を判断しやすくするため、下校時に実施している。

通学路周辺は、設楽ダム建設に伴う工事関係車両の増加に伴いごみが増えている。また、児童数家庭数減少に伴い美化活動への規模が縮小している。そこで、地域に向けて啓発活動を行い、共に美化活動に取り組む有志を募ろうと考えた。

子どもたちの発案で、学区にある商店の出入口や掲示板にポスターを掲示していただいた。ポスターを見た地域の方やダム事業関係者が、開始時刻に合わせてごみ拾いに参加してくださる様子が見られ、活動の広がりを実感することができた。

（３）地域の協力で安全に　～登下校の見守り～

あんしん安全見守り活動として、保護者による登下校での付き添いや見守り活動が２０年以上継続されている。『無理なく、でも欠かさず』をコンセプトに、ＰＴＡ会員への参加を促している。担当は２か月ごとに参加の有無を集約し、結果を配付する。保護者やスクールガードは、通学班に同行する形で安全の確保に努めている。

一部の地域の方は、自宅前で子どもたちの登校の様子を見守りながら学校へ送り出してくれている。長きにわたり、地域の中で子どもたちが見守られていることを実感している。

（４）地域の人材を活用して　～読み聞かせ活動～

文化部会の活動として、児童向けの読み聞かせ活動を行っている。これまではＰＴＡ会員に希望者を募り行ってきたが、地域の人材の活用をねらい、読み聞かせ活動を行っているボランティア団体にも依頼した。

読み聞かせボランティアの方々も活躍の場や学校との関わりを望まれたこともあり、快く引き受けていただくことができた。本の中に引き込まれるような読み方は、ＰＴＡ会員だけでなく教職員にとってもよい刺激となっている。

６　成果と今後の課題

地域の人や資源を生かして取り組むＰＴＡ活動は、学校が目指す「地域とともにある学校」づくりにも大きく貢献していると言える。また、ＰＴＡに関わっていただける地域の方にとっても喜びややりがいになるように、活動内容を再構築していくことも大切な要素である。

児童数、家庭数の減少により、ＰＴＡ活動も縮小せざるを得ない状況になっていく。しかし、地域の特徴を生かし、連携強化を図ることで、持続可能な活動を構築していきたい。